

養育院の周年史 その1

宮本孝一 老年学情報センター



櫻園通信 79 令和5年2月
東京都健康長寿医療センター
養育院・渋沢記念コーナー
連絡先: 老年学情報センター

企業や学校などが区切りの良い年にその組織の歴史をまとめて記念刊行する本を周年史といいます。〇〇周年記念誌、〇〇年史といった名前がつけられます。

養育院もこれまで5つの周年史を刊行しています。2023年2月には東京都健康長寿医療センターで約400ページの病院、研究所開設50年・養育院創立150年記念誌(DVD版)を発行します。



記念出版(周年史)なし

10周年 1882(明治15)年

本院は神田。記念式典や記念刊行物なし。

養育院廃止案(府費支弁打ち切り)が東京府会で可決。

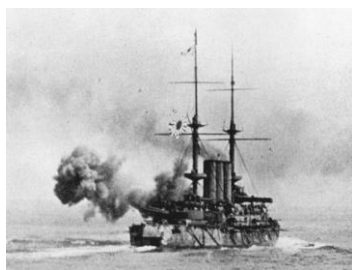


日清戦争

20周年 1892(明治25)年

本院は本所長岡町。記念式典・記念刊行物なし。

「養育院年報」発行開始。紡績業や製糸業などの軽工業で産業革命(機械化)。



日露戦争

30周年 1902(明治35)年

本院は大塚。記念式典・記念誌刊行なし。

院長職復活(1890-1901年は委員長)。法改正により行旅病人の収容者が数倍に急増。日清戦争後、工業化と経済発展が進む。



重工業の発展 貧困層の拡大

40周年 1912(大正元年)

本院は大塚。記念式典・記念誌刊行なし。板橋分院用地を取得。1905(明治38)~1914(大正3)年は長期の大不況。

50周年 1922(大正11)年

本院は大塚・記念式典開催。『回顧五十年』刊行。板橋に本院建設開始。翌年、関東大震災発生。

養育院創立50周年記念刊行「回顧五十年」

1922(大正11)年、養育院創立50周年記念式典開催。式典の参列者には、渋沢が語った養育院の思い出を田中太郎幹事が筆記し、巻末に各種統計を載せた『回顧五十年』(渋沢栄一述 田中太郎筆記 東京市養育院発行 1922)が記念刊行物として贈られた。『回顧五十年』の原稿は、東京市養育院月報の261号と262号にも掲載されている。当時本院のあった大塚は都市化が進んだため、移転が計画されていた。記念式典の年には、板橋で本院の建設工事が始まった。『回顧五十年』は、養育院経営のいくつかのトピックスについて簡潔に語ったもので、50年間の経営で渋沢栄一院長にとって特に印象深かった事は何か、その時に渋沢がどういう思いだったか、を知ることができる。



60周年 1932(昭和7)年

本院は板橋。記念式典開催『養育院六十年史』刊行。前年に渋沢栄一逝去。満州事変。田中院長就任2か月で急逝。川口院長就任。

5つの周年史① 養育院六十年史

1933(昭和8)年発行 東京市養育院編。最初に刊行された養育院の周年史。院史編纂委員長は川口寛三院長。本文682ページ、附録90ページの大著だがわずか8ヶ月で脱稿。当時保存されていた文書からの引用が多い。



創立以来の養育院に関する一次資料の多くが戦災で失われたため、創立から昭和7年までの養育院の動向を知る基本的な情報源である。

